

提言テーマ 「農林水産業の振興」 農業後継者確保に向けた方策

提言内容

近年の農林水産業は、少子高齢化の影響により後継者不足が続いています。農業分野においても、担い手の減少や高齢化の進行による労働力不足が深刻な問題となっています。そこで私は、この問題を解決するための方策として、3つのことを提案いたします。

まず、1つ目は、**将来の農業を担う子供たちに、「農業」の魅力伝えること**です。小さい頃から農業にふれあう機会を増やすために、小中学校の授業に農業の学習内容を取り入れてはどうでしょうか。例えば、小学校で行われている宿泊体験学習に、農業体験を取り入れます。農業体験ができる民泊施設などがあれば、少人数でより充実した体験ができ、地元の方々との交流も深めることができます。中学校では、自分たちで栽培した野菜や果物を収穫し、加工・販売することで、6次産業化の流れを体験します。加工品の値段を決めたり原価計算や収支決算を行うことで、農業経営をイメージすることができます。さらに、学校に土地がない場合は、近隣の耕作放棄地を利用すれば、現在の農業の現状も知ることができます。

次に、2つ目は、**農業のイメージを変えること**です。「きつい」「汚い」「危険」、いわゆる3Kのイメージをなくすために機械化や無人化に取り組むことが必要です。すでに、農林水産省から、スマート農業の推進を図ることが提言されており、今後、ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用した超省力・高品質生産を実現する取り組みが進んでいくものと考えられます。長崎県でも先進的な農業を展開するため、これらをいち早く導入し、行政を中心に地域で取り組める仕組みを確立できれば、担い手の増加につながるのではないかと考えます。また、農業高校への展開を図ることも明記されており、私たちもスマート農業には大変興味があります。先進的な農業を体験できれば、就農に興味を持つ高校生の育成にもつながるのではないかと考えます。

最後に、3つ目は、**収入を安定させる取り組み**です。新規就農のためには、農地の確保、農業用機械の購入など、資金調達が必要です。そこで、まずは、農業法人に就職し、栽培技術を学びながら資金を貯め、独立するという仕組みを行政レベルで確立してはどうでしょうか。また、6次産業化を通じた所得増大のため、加工品のブランド化を図る取り組みが行われていますが、個人では十分な加工施設が整っていないところも多いはずで、そこで、共同で使用できる加工施設があれば、ブランド化の推進にもつながるのではないかと考えます。

まとめますと、今申し上げてきたことは、農業の分野に関わらず、農林水産業全体に言えることだと思います。この3つの取り組みを、子供のころから段階的に継続的に取り組んで行くことが、農林水産業の魅力発見につながり、長崎県の将来を担う後継者の育成につながっていくのではないかと考えます。

以上で、提言を終わります。